

*La mode illustrée ; journal de la famille*, 1860-1912.

Paris, Firmin Didot. 38.1×27.1cm. <K383. 135-M> 文献番号 10-29

Hiler p. 619    Colas 2082    Lipper. 4690

『ラ・モード・イリュストレ』1860年-1912年

「モード画報」の意で、19世紀後半に現れたモード誌のうちでは最も重要なものの一つ。1860年に始まり、1930年代末まで続いたフォリオ判の大型雑誌で、そのほとんどをカバーすることができたのは、むしろ僥倖というべきであろう。この雑誌は毎週日曜日に、2万部程度発行されたといわれる。また、このモード誌は婦人用下着を初めて掲載した雑誌の一つである点でも知られており、トリミングのレースや刺繍までが綿密に描写されているものの、この場合の人体そのものは省かれている。当時一般のモード誌では、下着やコルセットを描き出すことはタブーとされていたが、本誌は一人体を抜きにしてではあるが一それを大胆にやってのけたというわけである。

本誌はまた、手彩色のプレートのほとんどすべてが抜群に優れている点でも知られており、とりわけそれらは、19世紀中期に活躍したフランスの有名なモード画家三姉妹によって描かれていることに起因している。三姉妹とは、19世紀前半のフランスで活躍した画家であり、石版画家として知られるアレクサンドル＝マリー・コラン (Alexandre-Marie Colin, 1798-1875) を父とする三人の娘たちで、長女のエロイーズは画家のルロワと結婚したためエロイーズ・ルロワ (Héloïse Leloir, 1820-1874) と称し、マリトン店と契約して1855年以来『ラ・ベル・アッサンブレ』誌のプレートを担当した。次女のアデル・アナイス (Adèle Anaïs, 1822-1899) は1845年に G. A. トゥードゥーズと結婚して、アナイス・トゥードゥーズ (Anaïs Toudouze) を名乗ったが、それ以前のサインはアナイス・コラン (Anaïs Colin) を用いている。本誌や『ル・フォレ』誌 (Le Follet) <K383. 135-F> に多く描いており、そのあとを娘のイザベル (Isabelle Toudouze) に引き継いでいる。三女のロールは結婚してロール・ノエル (Laure Noël, 1827-1878) を名乗り、本誌や『ジュルナル・デ・ドゥモワゼル』(文献番号 10-21) 誌などのプレートの原画を描いた。数は少ないが、彼女の初期のサインはロール・コラン (Laure Colin) である。彼女たちの作品は、有名なガヴァルニ (Gavarni, 1804-1866) やダヴィッド (Jules David, 1808-1892) らの石版画プレートと共に、1830年から1890年までの60年間を華やかに飾っており、19世紀中期のモード画家として中心的な役割りを果たした。(口絵参照)

なお、本館には、三姉妹による本誌の原画アルバム 35 巻、計 1,788 枚—これは世界に一例だけなわけであるが—が別に所蔵されている。(石山)

